コラム 7-3　遺伝的影響とポリティカル･コレクトネス

ポリティカル・コレクトネス（political correctness）とは，本来，性別･人種･民族･宗教などにもとづく差別・偏見を防ぐために，政治的・社会的に公正・中立な言葉や表現を使用することを指しています。この考え方自体は正しいものなのですが，問題は，政治･社会的中立性と科学的事実が一致するとは限らないことがあるということです。

たとえば，人間の能力やパーソナリティには遺伝的要因の影響が大きいということは，科学的には真実ですが，政治･社会的中立性とは矛盾してしまいします。たとえば，アメリカの多くの研究で，知能指数の平均値には人種的なルーツが異なるグループ間で差があることが報告されています。しかし，それを認めると，採用場面などで人種差別につながる可能性があるので，その事実（人種的ルーツの異なるグループ間の知能指数が異なるという研究結果）は，ポリティカル･コレクトネスに反するとして，社会的には否定される傾向があります。つまり，科学の世界では正しいとされることが社会では正しくないとされているということです。

「努力をすれば叶わないことはない」というスローガンを日本ではよく見かけますが，これは社会的には正しい主張かもしれません（ポリティカル･コレクトネス）。しかし，この主張は科学的には正しいとはいえません。たとえば，子どもの頃から毎日ひたすら走る練習をしていれば，成人になったらオリンピックで 100m の金メダリストになれるでしょうか。現実には 99%以上は無理でしょう。国内大会でも決勝進出は難しいかもしれません。一方，生まれつき足が速いスプリンターの素質を持った人がいても，適切な練習をしなければ，オリンピックはおろか国内大会にも出場できないでしょう。速く走る素質（遺伝的要因）と高度なトレーニング（環境的要因）が組み合わさったとき（相互作用），はじめてオリンピックの金メダリストが生まれるのです。

つまり，遺伝的条件を前提として環境は効果を発揮するのであり，努力をすること（環境条件）は，個人の行動（パフォーマンス）を改善しますが，その効果は無条件ではない（遺伝的条件の制約）ために，努力による成果は保証されるわけではありません。社会的に正しいとされることは，科学的に正しいことと同じとは限らないのです。